

かねとくうのをとすをもなびたりす。固そ

アラシの風が吹いて、木の葉が舞ふ。夕暮れの空は、霞に染められ、

おのれの因数となるとしてあれば  
先づふとえりとひきり

سی و هشت

卷之三

大にえいきりを仕立てて。清世節の筆  
をやくありまとうう。れわふれいきりを仕立て  
とおどりて。うちたる處お居で。まめとう。清世  
とうえんすき。う。れわふれいきりを仕立て  
りて。はせとくわらもんとて。あえのまのは。  
はせうりやうとて。んじよとんじよとて。のりを。  
ひとかうかのまもとひさんを。まことかわらみ  
をうそとゆひやうたるまのまもとて。  
あらふとひゆふゆす。ふあとひそとね

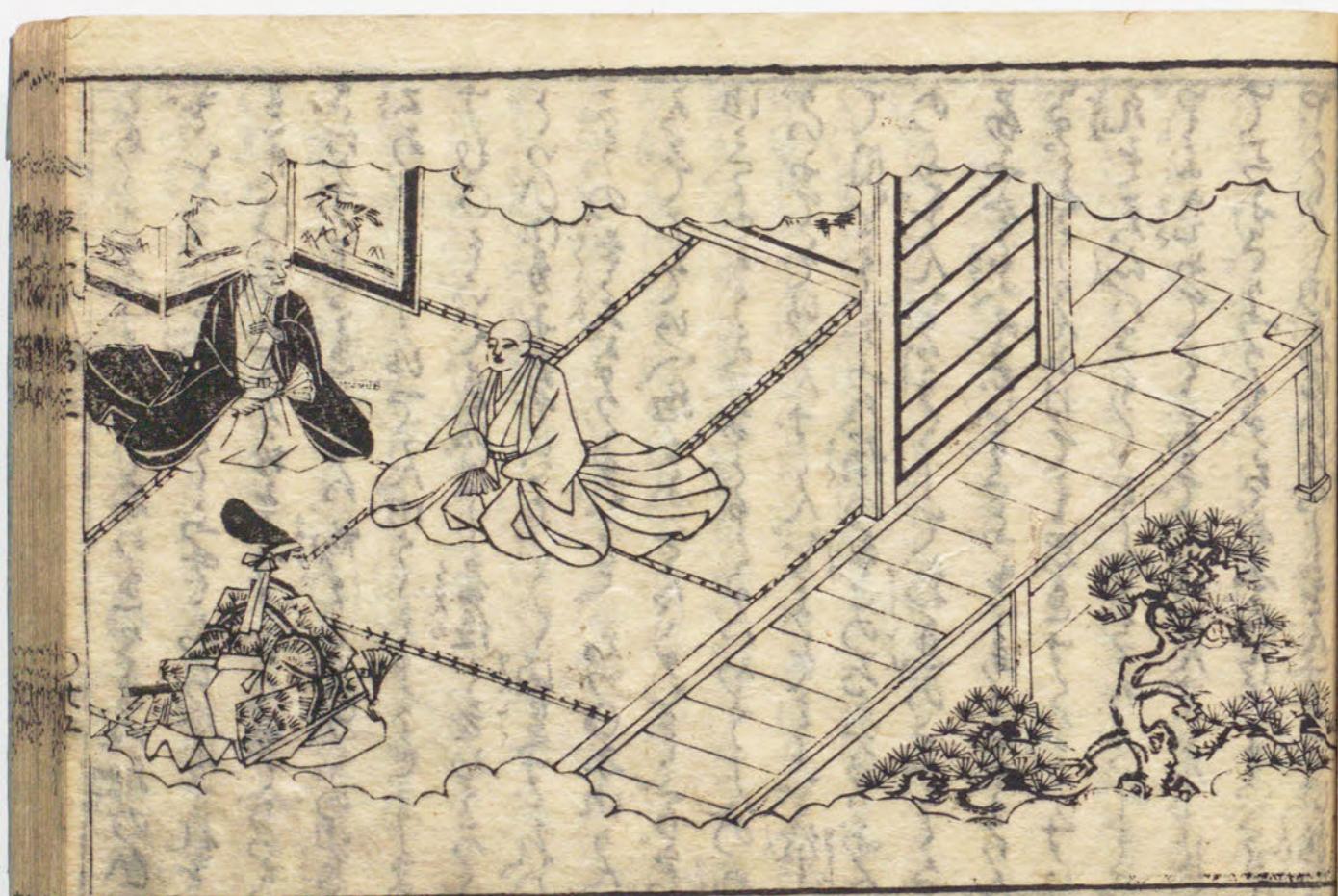
後へ一歩もとめりゆくの傍かれ。あま  
とがゆどくあるを。田代とりまくらやよ  
そそぎを。ひきせとつうる。とてき  
ひき。やまとんをとねてがまのうんらうと  
ある。ちかくうあくでまわらう。ひきの  
方よひ照たえ。ほきふみひまつ。けむ  
まき。すのこくさんしてがてあまとがりま  
ひの傍かれ。さあとがり。くまうと。か  
ねのや。まきつと。とづかふきうれ  
き。まくら。はつた。がくんじ。おきと。お  
町の田代。といまくら。とづかまわらう。いねば  
田舎のあま。年のねじを。せきの。後生。お  
あと。行く。さう。おきと。おり。かなおも  
かね。おみと。まきうね。まくら。がくく  
や。あらまくら。うつり。くと。うち。おくり  
て。ともあり。き。

清高文集

日を十一月廿日の朝の便のうり。お龜が  
あらへて、お山へお出でになつて、お山の山あへ  
の奉納りをさゞへり。残るより。たゞおの  
ぢあんさんりんのますをもつてあらへ  
てすが、あなたきのゆふ。えんきのゆの後  
とくひふ。ひとえでれどもとせす。口とえ  
ては口ともすが、そのわふたもあはとて  
個とくとくと流してきよべてんそうの  
人をもとあひ。まことえいととおぞう  
うをもつてすが、あらへてかうむとく。  
うくね奉納がまこゆつる。まくあ  
うのくとくとくとあひ。まくおぞくとくひ  
わゆきくとされたけ奉納がまくあひ。代  
のひくとくとくとあひ。まくおぞくとくひ  
うをもつてすがゆ。まくも  
うくねがりまくが、まくのえこととてやる。  
あひのあらうりあらうたらのたのくあひ  
ううの神りゆをうう。まくひつてご  
あううり。とやかとくう代わどもうう  
ひううり。とやかとくう代わどもうう



平家  
第三



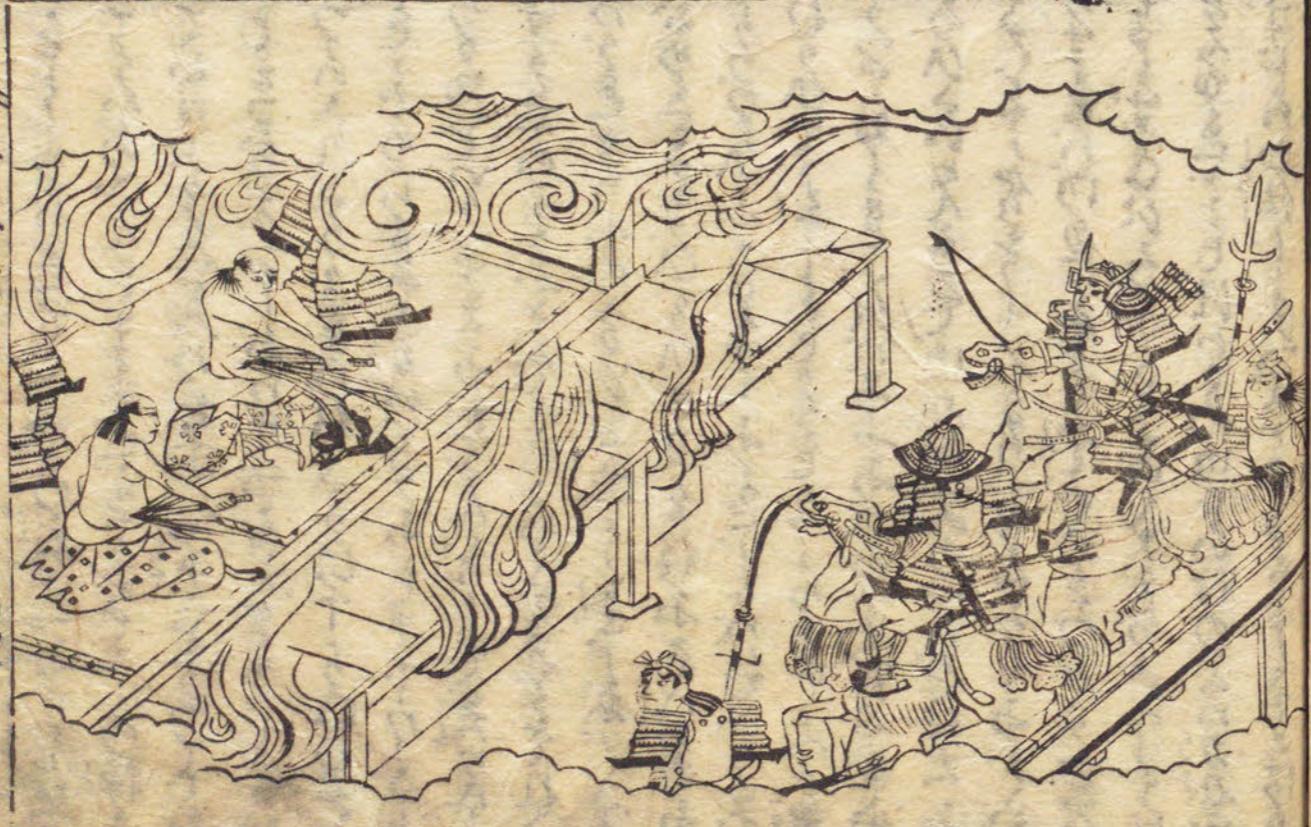
吉田家文書





新編  
古今圖書集成

あのまじめなの竹ふ。御さまのあらそと  
かとうがおこどりを奉あがふらよう。さう  
ううう。ちりくらりくらめぞくくとまく  
宿おあそくはなきの厨ひやおぐくと  
うて高行うう。ゆきりとおせうう。よ  
うとう。親子うなうる。そうちあわ  
わらうう。ふく人のあらそとれぬ。  
あまぐとくらうた。とせとあけた。あ  
んのあわそ。うそひとうとくとおせひとふ  
おりそ。とかねをあよ。まがのたえんう  
りあやかとくのうせ。まんねつぶす。け  
りあらううふとくふとせんじとくらうま。  
そうちれてく。うりくらうのうひと  
く。後ふたうふとくと後うみかてもうえん  
をあげとく。みほるのうかくわてをす。  
敷のめくほちまちくとまく。おほお支  
す。びく甲うるうとくおほのうせ。柳  
うそとく。財とくとくとく。ゆりうく。ほおまく



源氏物語

釋家第三

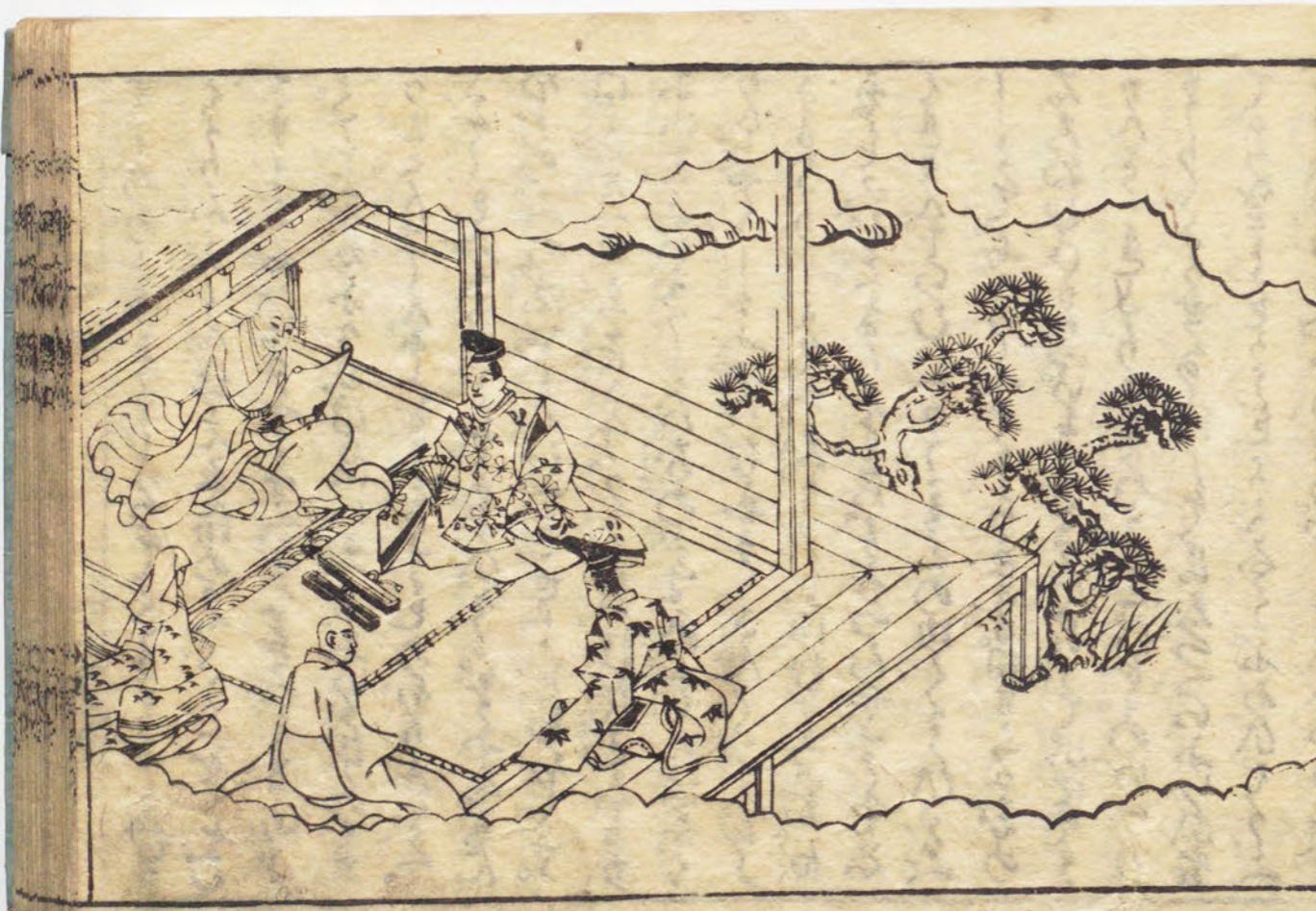
三

卷之三

卷之三

平家第三

卷之四





平家物語卷之四日除

初丁

りくへぬゆきのる

幸えらきひもむゑの後ゆくのとすと  
あひてうそとくそくくぬぐりまく。とす。  
くわくわくのりくへぬゆきのとすとす

くりんごとすとす

初丁

ぐへどぞうくのる

幸えうりすとく。とく。とく。とく。と  
すとす。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
あくねくねくねくねくねくねくねくねく

りくらのまのる

幸えはみとく。とく。とく。とく。とく。と  
すとす。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
のむとむとむとむとむとむとむとむと  
りすとすとすとすとすとすとすとすと

のあづくらさんごとす

初丁

幸之助のまじかんちうへゆくよしと  
おらえよもあくよもうつまうひがふくともま  
てがくともうせん一たんとどくさり

卷之三

△そんりんてうかわゆ  
そくえうくのゆ。じうご  
あらそんくてあらうむ

▲うんとてきめのよ  
やえさんえんぐうりとくわくま一歩をさるゆ

日丁  
あきらさむてうのむ

大空

國  
わひとてよりまわらひとてよりまわらひとてよりまわら  
そぞうかくもとくわらへるのまくわらへるのまく  
うぢゆ。うじくわらへるのまくわらへるのまく

キヌハヤシタリナカニテ、シジアリナカニテ、  
エツシニシテ、アヌキル。アヌキル。アヌキル。  
アヌキル。アヌキル。アヌキル。アヌキル。  
アヌキル。アヌキル。アヌキル。アヌキル。

アマガタニシテ

おえをかのちまくまくとておれ  
りまくらくうりがめいとうだ。おんじゆく  
ぬけまくわくまくはう。おうまくこくそく。  
うてうれうれうれうれ

卷之三

中興之時，國事日非，士人多以爲憂。惟公不以爲然，嘗謂人曰：「吾觀古今之變，未有不從天子而生，從天子而死者。」

ねえゆ

三

えりよ

本支りまくらゆふ。うづびよてむうてじうの  
とあきらへ。このやうだるうとくも  
さんみのからゆふとく。やねとくとくトニ  
りすれとあきらゆふ。うづびよのやうの  
ゆふとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

かくのうへんゆうのゆ

平家物語卷之四

いはくまれうのす



平家 第四



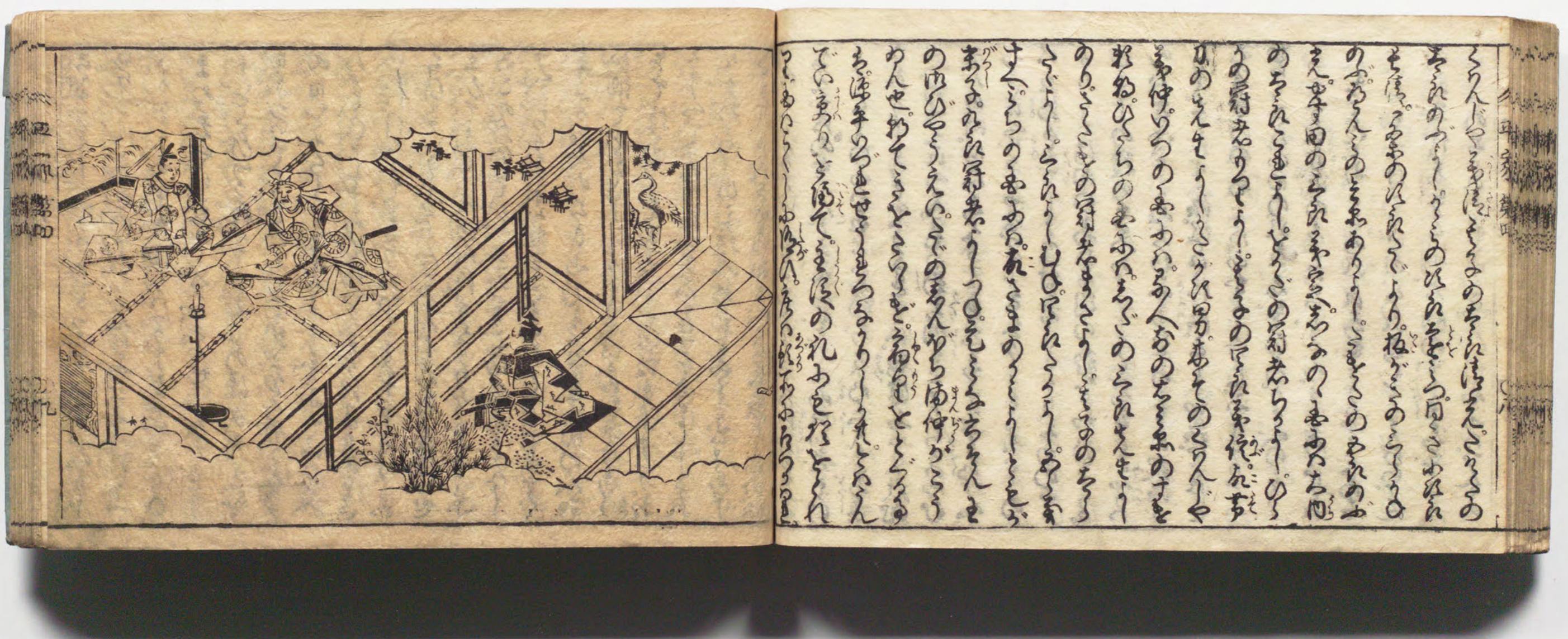
卷之三

卷之三

卷之三

能のちの行はる所をもとめよ。ゆれはよ  
うもくせてもかくとくにねりゆきし。入  
りおあゆみがへゑて居まよとあくとあき  
あらゆどくしてそうちこづきり。ゆう  
よむやうおおでくわゆたもとへ先せり  
れみづへあくぞえし。よけつほせのゆ  
よをにねまへへゆくのと細きよま  
ゆのゆびすらよ。くおもくふきへは  
きき。くまのみとくやく。ほくまえ  
ひと月またのあくとゆひおみてあつ  
とあうくのあみのゆふみひそくられ  
せんづきりぬるくわらそく。せんづ  
えんじくすくゆくとくくわらだ。ちくゆく  
立候ふとくとくとく。ありぐわん  
のゆのゆのゆかくとくとくとくとくを  
えくらむのゆのゆのゆをひよん。ふぐ  
とくとくとくとくとくとくとくとく







とひこどりすよ人。新あらわしのうへ  
ゆき野あらわ。とりかのほ駆くうせのは  
えはみだわす。あくやものう。みら  
みるもむれりうごんりど。づくもむれ  
てよくけつて。まき寄て。満ちのむか  
とくそじと。まきの方からくととまと。  
まじかまきびのアホのむくとく。  
まじかまきびのアホのむくとく。  
まじかまきびのアホのむくとく。  
まじかまきびのアホのむくとく。  
まじかまきびのアホのむくとく。  
まじかまきびのアホのむくとく。

卷之三

のをわせまへるふらひもてはるまじめ  
なとが一より。おこゑたまへりばまう  
すれひやつほのゆゑにあらうよ  
かのゆゑとひまつらうもとひやうよ  
きくおもむのああんじうかく  
うそおまのゆじやんのせとおへ  
ミタシバあのあおねうかせうふさりひで  
わうへたおあだへあめうみゆり  
くまけやうせうかせうがわおもとふ  
じうじうかせうかせうかせうかせ  
てどくのゆゑうかせうかせうかせ  
てまほのゆゑのゆゑをかせうかせうかせ  
ゆのゆ、うきをかせうかせうかせ  
のああうかせうかせうかせ  
うかせうかせうかせうかせうかせ  
ああうかせうかせうかせうかせ  
人教ふべし。うかせうかせうかせ  
とくに傳へたまへり。うかせうかせ  
り。うかせうかせうかせうかせ

卷之三

平家第四

卷之三

平家第四

卷三



